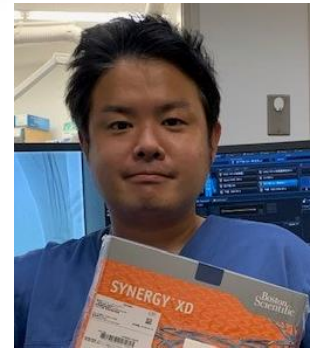


SYNERGY XD Clinical Case Report

ハイリスクな疾患を背景とした
ACS患者へのSYNERGY XDの使用経験
京都府立医科大学
若菜 紀之 先生



➤ はじめに

今回、経験した症例は、十二指腸癌に伴う閉塞性黄疸の治療中に発症した急性冠症候群(ACS)の一例である。高齢(75歳以上)でもあり、責任冠動脈病変には、高度石灰化病変を有していた。多発性脳梗塞の既往もあり、非常に高出血リスク(HBR)な症例で、将来的に抗血小板薬2剤服用(DAPT)継続に関して非常に不安が強い症例であった。

高齢者は、様々な背景を有するケースが多く、出血性合併症の素因も強い。また、本症例の様に、全身の動脈硬化性変化も強く、病変形態としても、複雑病変であることも多い。このような症例において求められるステントの特性としては、①将来的な出血性イベントの発生を極力減らす為に責任冠動脈病変の早期ヒーリング効果と短期DAPT期間②手技をシンプルに簡便に終えることができるデリバリー性能が挙げられる。

➤ 症例情報

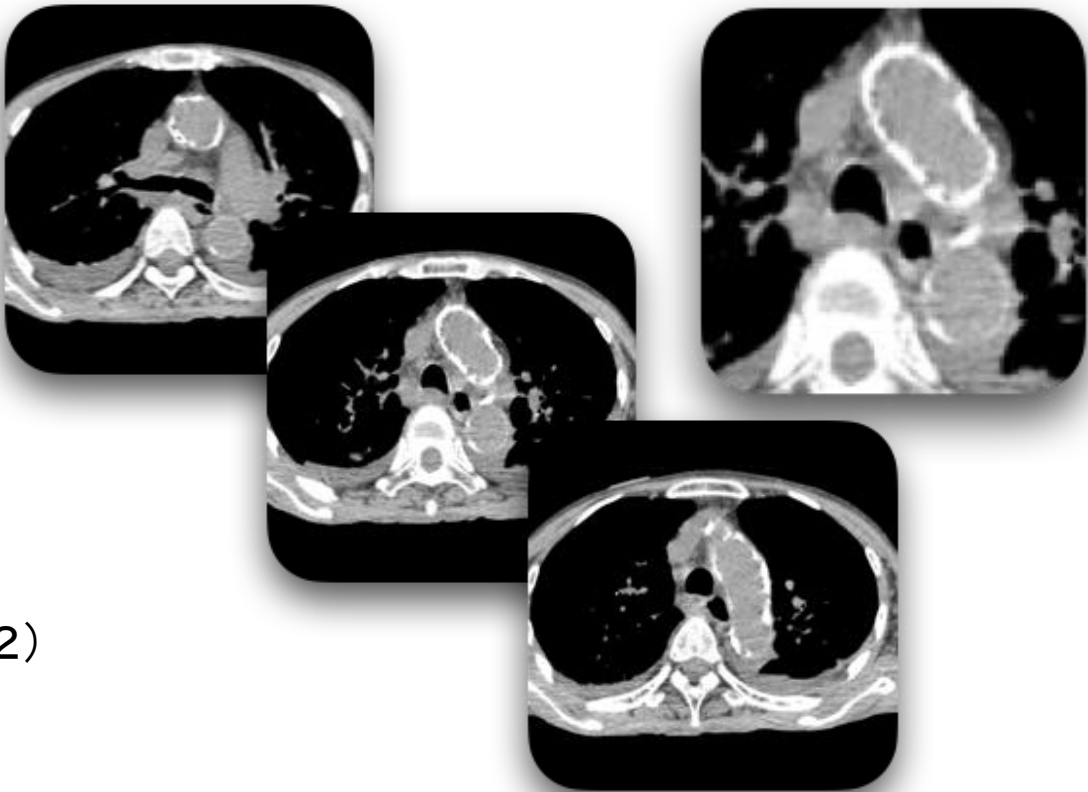
症例は81歳の女性で、十二指腸癌に伴う閉塞性黄疸と急性胆管炎と敗血症性ショックの治療で入院加療中であった。既往歴に遺伝性脳小血管病(CADASIL)を背景とした多発性脳梗塞がある。入院中に胸痛の自覚があり、ST上昇型心筋梗塞の診断で当科へコンサルトとなり、緊急冠動脈造影を行った。右冠動脈中間部(#2)に完全閉塞を認め、同部位に対してPCIを行う方針とした(図1)。



SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System

➤ 治療戦略

本症例は、種々の合併症の既往もある非常に高出血リスク(HBR)な症例で、将来的に抗血小板薬2剤服用(DAPT)継続に関して非常に不安が強い症例であった。また、入院中の経過でADLの低下やフレイルの進行も認めたことから、なるべく手技は短時間で終了させ、治療後もDAPT期間を可能な限り短期間にするのが望ましい症例であった。石灰化を疑う病変であり、バックアップ形状のガイディングカテーテルを選択することも考慮したが、以前に施行された単純胸部CTでは上行大動脈に高度石灰化を認め(図2)、ガイディングカテーテルの操作が困難な可能性が示唆された為、バックアップ形状は使用せずにエクステンションカテーテルを用いた治療を行う方針とした。



(図2)

➤ 手技手順

左橈骨動脈アプローチで6Fr. JR40でエンゲージを行い、手技を開始した。ガイドワイヤーはCaravelを使用下にSIONで比較的容易に通過したが、IVUS (Alta View) は不通過であった。2.0/15mm balloonも通過困難であり、エクステンションカテーテルを使用し、匍匐前進での拡張を行った。2.5/10mm NC balloonでの拡張を試みたが、拡張不良が残る状態でballoon ruptureを来した(図3)。2.75/10mm cutting balloonでの拡張を追加することで拡張が得られた。#3から#1にかけてSYNERGY XD 2.5/38mm + 3.0/38mmを留置を行った(図4、図5)。ステントデリバリーに関してはエクステンションカテーテル使用下ではあるが、通過性の良いものであった。

(図3)

(図5)

(図4)

最終造影

SYNERGY™ XD
 Everolimus-Eluting Platinum Chromium
 Coronary Stent System

➤ 考察

高齢化社会において、ACS患者といっても様々な合併症を有するケースが多く、出血性素因も強い。近年、EVOLVE Short DAPTやSENIORといった高齢者やHBR患者に対するトライアルから、SYNERGYステントのshort DAPTへの可能性が報告されている^{1,2}。ACS患者に対してはMECHANISM-AMI-RCTが現在進行中であり、イメージングデバイスを用いたSYNERGYステントの早期ヒーリング効果が示唆されつつある³。

本症例でもハイリスクな合併症を有した患者であり、DAPT期間は1ヶ月として経過をみているが、幸い、ステント血栓症や出血性合併症の関与なく経過している。

高齢者のACS患者は、本症例の用に全身の動脈硬化性変化も強く、病変形態としても、複雑病変であることも多い。ハイリスクな患者背景であればあるほど、医療安全の観点からも可能な限り手技を単純にすることや手技時間の短縮が望まれる。また穿刺部トラブルのことも考慮し、撓骨動脈アプローチを選択することが多いが、血管の蛇行や石灰化が強く、ガイディング操作が困難であったり、デバイス通過が困難であるケースも少なくない。こういった症例にはPushabilityが向上したSYNERGY XDステントが有効と考えられる。本症例においても鎖骨下動脈の蛇行は強く、上行大動脈の石灰化が強い症例であったが、SYNERGY XDはストレスなく通過し安全に手技を終了することが可能であった。

1. Varenne O, et al: Lancet. 2018; 391: 41–50.
2. Ajay J, et al: EVOLVE Short DAPT: A Single Arm Study of 3 Month DAPT in Patients at High Bleeding Risk Treated with a Bioabsorbable Polymer-Based Everolimus–Eluting Stent. presented at tct 2019.
3. PCR e-Course Hot line 2020 / Late-Breaking Trials

SYNERGY™ XD
販売名: シナジー ステントシステム
医療機器承認番号 22700BZX00372000



 Advancing science for life™

SYNERGY™ XD
Everolimus-Eluting Platinum Chromium
Coronary Stent System

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
 本社東京都中野区中野4-10-2中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp

径表示換算目安: 1mm = 3French = 0.0394inches 製品の詳細に関しては添付文書等でご確認いただくか、弊社営業担当へご確認ください。
 本資料は製品の効果および性能等の一部のみを強調して取りまとめたものでなく、製品の適正使用を促すための物です。